民俗資料館だより

第8号　２００１．３．３１
発　行　加茂市民俗資料館
住　所　加茂市大字加茂229-1
電　話　0256－52－0089
ＦＡＸ　0256－52－0089

郷土を知る手がかりとして館のご活用を

加茂市民俗資料館長　田　澤　弘　一

この冬は、昭和61年以来、15年ぶりの大雪となりましたが、市民の皆様には日頃から民俗資料館をご利用頂いておりますとともに、ご指導、ご鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、当資料館は昭和49年に現下条コミュニティセンターとなっている場所で開館し、平成６年11月から加茂山公園内の旧図書館の建物を転用して、現在に至っております。現在の場所に移って６年余りが経過しましたが、年間平均で約2,600名の皆様からご来場頂いております。

小学校の課外学習、趣味のグループ、加茂山の散策の折りに寄られる方など、目的はそれぞれ異なっておりますが、一様に「加茂の昔のことがよくわかった」「小さい時、家で使っていた民具があって懐かしかった」などの感想がアンケートに記入されており、目まぐるしく変化してゆく時代の中で、資料館の役割が大切なことを改めて認識させられるところです。

民俗資料館の展示品は、約1,200点ですが、昔のタンス・建具、機織りや農耕の用具、遺跡から出土された石器や土器など日常見る機会の少ない貴重な資料を多く展示いたしております。

昨今は、生活様式の変化、核家族化などで各家庭におきましても、古い貴重な物が数少なくなってきております。このため、家の新築、転居等で整理をされる際、家には置けないが何とか残しておきたいという古文書や民具等がありましたら、ご一報くださればこちらで確認に伺いたいと考えておりますので、ご協力をお願いするとともに、今後ともご指導下さいます様よろしくお願い申し上げます。

「銀田鴨背遺墨」

下条・塩飜神社の扁額（銀田稔書）

銀田鴨背先生覚え書

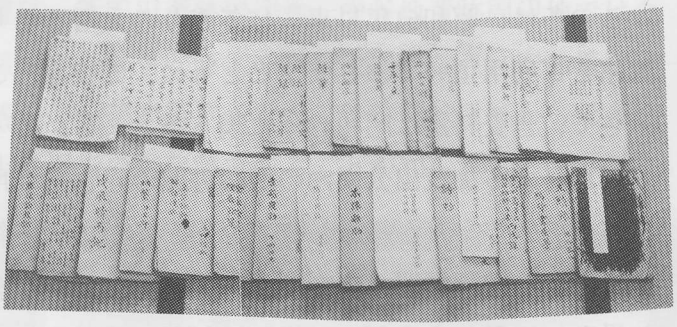
加茂市文化財調査審議会委員長　古　川　信　三

このたび、縁あって、銀田鴨背先生の沢山の遺稿にめぐり合う幸運に恵ぐまれることができた。年来の念願を果した思いが深い。

しかし、この高名な漢詩人の筆跡や、漢字文学は、難しい文字の羅列である。読めない。意味が解らない。辞書と頚っ引きでも判らない。それでも嬉しいのである。

古往今来、鴨背先生について述べた文献は多い。筆者の知る例を挙げれば次の通りである。

1. 新潟県史　別編３　人物編　近世偉人伝　銀田石牛伝（250頁）
2. 加茂市史　上巻　第８章明治時代　18節明治天皇の北越御巡幸　千草の花（786頁）
   加茂市史　下巻　第４章明治以後の下条村　第１節　2. 下条村の教育（100頁）
3. 北越詩話　下巻　巻９　（676頁～687頁）
4. 南蒲原郡先賢伝　第２輯（60頁）
5. 越佐文学散歩　中巻（190頁）
   加茂の文人たちと伝承
6. 郷土の偉人　学術技芸
   （教授資料・加茂高等女学校編・28頁）
7. 温古の栞　18篇　威力院墓碑銘
   （巻２－357頁）（復刻版・上巻 700頁）



銀田鴨背遺稿

8. 越佐人名辞書（村島靖雄編）、越佐人物誌（牧田利平編）、県央の人物（西方藤七編）

これら各書のおおくには「遺稿はなはだ多し、遺稿すこぶる多し」との記述があるが、生家の光徳寺にたずねても、鴨背先生の書跡を所有しておられる下条在住の愛好家にたずねてもその遺稿の所在は杳（ヨウ）としてわからなかった。

平成３年10月20日、加茂市公民館主催「ふるさと歴史探訪」が、巻町のアヤメ塚古墳～良寛遺跡を訪ねるコースで催された。参加者58名、マイクロバス２台であった。当日の説明当番がが筆者であったので、説明書を作成し、俄か勉強をして準備した。岩室の種月寺から見学が始まり、７番目に巻町平沢、景清寺の大欅（高さ25m、目通り９m、樹令推定750年巻町指定天然記念物）を眺めた帰り道、景清寺門前に立つ「威力院墓碑銘」碑をみると末尾に「遺弟　銀田稔海印選文」と記載してある。

午後、巻町郷土資料館を見学、旧知の石山与五栄門館長と雑談中、たまたま景清寺の石碑に鴨背先生の名があることに話しが及ぶや、まだ、他にもあるという。早速、近くの松野尾にある「煙草改製記念之碑」に案内していただく。碑の末尾には「明治二十三年九月　銀田稔海印選併書」という文字が読みとれる。その後、平成５年３月に石山館長の銀田鴨背先生研究がもたらされ、遺稿が岩室村間瀬の真宗大谷派宝池山西蓮寺（住職24世鳳氣至道雄先生）に保管してあることが判明した。

平成７年６月18日は筆者にとっては記念すべき父の日であった。車の運転のできない者には、間瀬への道は遠かった。二男夫婦のプレゼントで、やっとの思いで西蓮寺を訪れることがで

きたのである。かねて、お願いしておいた西蓮寺さまご夫妻の温かいお迎えが身にしみて嬉しかった。箪笥の抽出しのまま奥より持って来られ、その中の遺稿を目にした際は、長い長い旅から帰ったような安堵感が胸を横切るを覚えた。

その日は、遺稿をコピーしていただけないか。とお願いして西蓮寺を辞した。平成9年3月に『銀田鴨背略伝』のコピーが拙宅に届き、続けて6月には23冊のコピーが届く。お礼やコピー代の支払いに西蓮寺を訪ねようと連絡すると、住職鳳気至先生は病気入院中と聞く。なにか知ら心に思い当り、巻町立病院にお見舞いに伺ったのは平成9年7月9日であった。その際、清水三舟先生の労作による『釈文・銀田鴨背略伝』をお届けして帰宅した。

平成11年元旦　西蓮寺様より届いた賀状の全文を紹介したい。「春陽来復本年も皆々様の御健康、ご多幸をご祈念申し上げます。○病も順調に回復いたしました。お渡ししたいモノがあります。時期をみてお会いしたいものです。」と、病の前に○印がつけられていた。

平成11年6月23日、1週間おくれの父の日であった。二男浩夫婦の車に清水三舟先生を迎え、一行四人で西蓮寺様の門をくぐる。胸中はある種の事を思ったり、打ち消したりの道中であった。西蓮寺のお座敷には、きちんと遺稿が積まれている。かたわらには数本の巻き軸。鳳気至先生は別に改まることもなく、茶をすすりながら「これを皆さんに差上げます」と申された。筆者は頭を下げ、有難うございます、と繰り返すだけで、どのように御礼を申し上げたか、感激のまま、忘却してしまった。遺稿29点、掛軸4幅、合計33点の授受式は終了。直会は席を改めて開催されたことはいうまでもない。間瀬のすぐ隣りは名にし負う岩室であった。

遺稿が西蓮寺へ渡ったのは大正8年（1919）7月という。平成11年（1999）から数えれば、80年振りに郷里、加茂の土を踏んだことになる。鴨背先生の感懐やいかが。もとより、遺稿類をいただく事などは思ってもみなかった。せめてコピーをいただき、北陸第一の漢詩人と謳われた銀田鴨背先生の真実に迫まりたかったのである。はからずも、鳳気至西蓮寺住職先生の先を見透された賢明と、寛(ひろ)い心で此のような異例なことが運んだのである。先生に感謝申し上げる。

平成11年7月8日に開催された11年度第1回加茂市文化財審議委員会において、今までの経緯を発表報告し、これら遺稿は私すべきものにあらず、整理次第、加茂市有とし、文化財に指定するのが相当であろうかと口頭で述べている。平成11年10月14日第2回文化財審議委員会には遺稿の目録を提出し、次の審議をまっている現在である。

遺稿は清水三舟先生の釈文で編まれた「銀田鴨背先生遺集目録」により簡記すれはば、啓貴台的動静・五鯖録・金光明寿量品・銀田鴨背遺稿・詩抄・渓山餘翠稿・木猿雞肋・鴨背詩稿・老雞瘦肋・吟屐餘跫・醉餘漫興・拙稿諸家評・戊辰晴紀・大野客中・王瀆政論経記・鴨背遺墨第一輯・吟屐餘跫㈡・醉梦餘鼾・鴨背遺稿・鴨背詩稿・海印漫筆・壬辰日乗・談経余興・鴻爪餘痕・随筆・随録・山田霜瑤翁書簡・銀田先生習字帖・未整理紙篇（銀田先生記・32枚）以上29点、外に掛軸4点、合計33点である。総て加茂民俗資料館に寄託されている。

筆者にとって忘れられない人は、陰の尽力者石山与五栄門巻町郷土資料館長である。平成7年頃退職後、間もなく肝臓癌を発病され、闘病空しく平成9年逝去、12年菩提寺普門院万福寺に顕彰碑建つ。過日参拝してこれ迄の経過を心ひそかに報告し、感謝申し上げた。

下条旱田の塩飜神社の春祭は4月15日、拝殿には鴨背先生の大扁額がある。「明徳侔大易(めいとくはたいようにひとし)」と読める。（終り）

Ⅱ 平成12年度の歩み

1. 入 館 者 数

平成12年４月
〜
平成13年３月

	市 内	市 外	計
大 人	２６３	１,０３１	１,２９４名
小中学生	５５４	３３２	８８６名
計	８１７	１,３６３	２,１８０名

2. 資料収集の状況

本年度は８名の方から18件51点のご寄贈を賜りお礼を申し上げ紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

・脱穀機　・精米機　・籾すり機　・噴霧器　・水桶　・こて　・火のし　・横槌
・竿秤　・ゲートル　・ハンモック　・祭提灯　・御神灯　・たばこ盆セット
・いろり用徳利沸かし　・５段重箱と収納箱　各１点
・漆塗り曲げわっぱ　２点　・銀田鴨背の遺稿　33点

〈寄贈者ご芳名〉

・知野新一郎氏　・木津　繁氏　・山本輝之氏　・瀬高　ハル様
・北沢仁太郎氏　・古川信三氏　・近藤良弘氏　・水信屋上町支店様

3. レファレンス・サービス及びアンケート調査（民俗資料館への問い合わせ）

レファレンス17件、　アンケート・調査11件

① レファレンス

・「北越の小京都」的なものを表している資料はないか。
・鳴鶴日下部東作の書による紀功碑は何処にありますか。
・旧、七谷郵便局について知りたいので資料を送ってもらいたい。
・加茂次郎吉綱の墓その他について
・加茂紙について
・新田義宗にかかわる伝承、史跡等に付いての情報交換を。
・日本最初のマカロニーの製造者と初期の機械、番付表手拭いの写真。
・その他

② アンケート・調査

・指定文化財の写真提供について
・馬にかかわる文化財の調査について
・平成11年度生涯学習・社会教育施設等調査
・博物館・美術館の観覧料の調査
・博物館による学習支援調査

4. 館 外 活 動

① 古文書講座

加茂の夜、5回にわたって実施されているこの講座も16年になりました。今年度参加申し込み55名で延べ178名の参加者を見ました。特に目立ったことは、皆勤された方が22名も居られたことです。

○日時　9月5日　9月12日　9月19日　9月26日　10月3日
　各火曜日　午後7時～午後8時30分

○会場　加茂市民体育館内　公民館　第1研修室

○講師　加茂市文化財調査審議委員
　長谷川昭一氏　溝口　敏磨氏　佐藤　賢次氏　関　正平氏（2回）

○内容　共通テーマ「江戸時代の暮らし」

第1回　長谷川　昭　一　氏
村松藩の七谷村に対する「御用木制度」
・百姓は一軒につき苗木を10本ずつ各自の所有地に植える。
・百姓は許可を受けて伐採し、後には必ず代わりの苗木を植える。
・絶えず杉の調査を重要視し、厳しく御様杉について調べていた。

第2回　溝　口　敏　磨　氏
・本家と分家の関係に関して、役場に届け出た誓約書
・親子関係で、親の思うようにならない子供が親に対して差し出した誓約書
・兄弟で交わした誓約書
　兄貴が未だに身を固めない弟を諌めて、お互いにしっかりやっていこう、と言うもの。

第3回　佐　藤　賢　次　氏
・越後国蒲原郡加茂中沢家書状帳について
・水原代官所と白河藩の間の農業女奉公人の
　「請状」「女奉公人様子凡書付帳控」その他について

第4回・5回　関　正　平　氏
上条村庄屋　中沢家の文書を読む　その1、2
・明田川仁右衛　竿請け田方が陣ケ峰稲荷神社に寄付されるまで
　永久譲り渡しの陣ケ峰新田のこと
・質として出したが流れた田んぼの證文のこと
・明田川家系図
・上条村庄屋　中沢太郎兵衛、文化12亥年9月13日～溝口出雲守様
　御入部　御礼登日記―藩主帰城　御礼之様子
・中沢家の系図

② 歴史講演会

講師は加茂市史編集委員の桑原孝先生にお願いしてありましたが御都合がつかなくなり、ご無理を押して古川信三先生にお願いすることになりました。快くお引き受けいただき、盛会のうちに終わることができました。感謝、感謝。

○日　時　11月25日（土）　　午後２時～午後４時

○会　場　加茂市民体育館内　公民館　第１研修室

○講　師　加茂市文化財調査審議会委員長　　古川　信三氏

○演　題　「加茂と北越戊辰戦争」　― 桑名藩との関わりについて ―

古川氏自身が最近桑名市・大垣市・海津町・四日市市・鈴鹿市等の関係方面を調査探索をされたそうです。何と85歳とか。

北越戊辰戦争の真っ只中、桑名藩主松平定敬の行程を追っている。

桑名発－函館経由－新潟港－桑名藩領柏崎－小千谷－加茂、市川邸－津川－会津若松－米沢－白石－福島－仙台－塩釜－函館－横浜－上海－横浜

戊辰戦争が始まり、終るまで行動しその途中で加茂に寄っている。

予定の倍以上の参加者に資料の追加コピーで慌てました。講演時間が不足のようでしたが興味深く拝聴しました。

③ 特別歴史講演会

文献・資料にもとづいて外面より加茂の中世を解明・推理しての解説であったか。

○日　時　13年３月３日（土）　午後２時～午後４時

○会　場　加茂文化会館　小ホール

○講　師　新潟大学　人文学部教授　田村　裕（ヤスシ）氏（日本中世史）

○演　題　「中世の加茂市周辺」

イ　①　中世越後の地域構造－中世越後国の荘園と公領

ロ　②　中世蒲原郡の荘園と公領

ハ　③　石河荘と青海荘

・律令制下における蒲原の郷－「倭名類聚抄」

・石河荘と青海荘の成立－「寄進地系荘園」

・石河荘と青海荘の荘域

・隣接する所領－金津保と粟生田保

ニ　④　鎌倉権力の展開と加茂市周辺

・将軍知行国と越後国の地頭－鎌倉幕府が植民地的支配

・青海荘の地頭たち－「地頭－向進止」

・金津保と粟生田保の行方－「足利尊氏下文写」

ホ　⑤　南北朝、室町期の青海荘、石河荘周辺

・越後国中世後期史の枠組み－守護領国制、国人領主制

・吉良氏領青海荘－「結番日記」「室町将軍家御内書案」

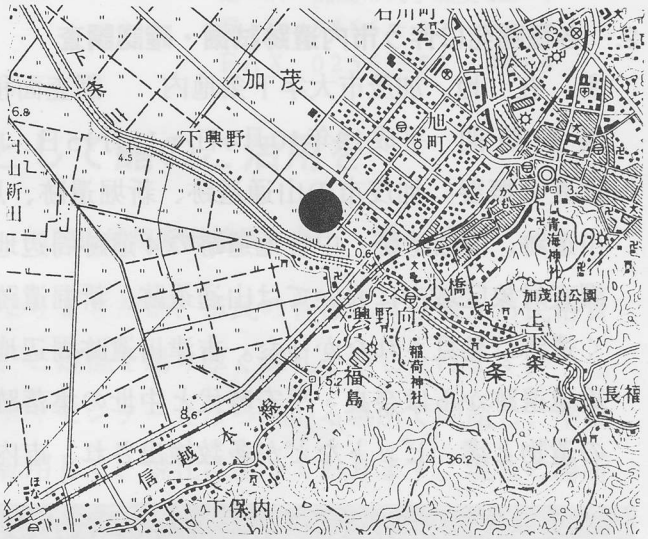
Ⅲ. 平成12年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課主事　伊　藤　秀　和

本年の発掘調査は下条陣ケ峰線道路建設工事に伴い中沢遺跡が調査され、加茂市では唯一の弥生時代の集落跡が確認された。試掘・確認調査は下条地区で行われ、3遺跡、4遺跡周辺地を対象に行った。

1. 中沢遺跡ー弥生・平安ー

所　在　地　加茂市大字下条字芝野地内
調 査 面 積　約1,050㎡（発掘調査）
調 査 期 間　平成12年5月17日～7月26日
調 査 原 因　下条陣ケ峰線道路建設工事
調査の概要　遺跡は上層と下層の二つの地層面で確認されたため、上層と下層毎に行われた。上層では平安時代の集落跡が検出された。掘立柱建物跡5棟、土坑3基、柵列1基、ピット、溝が多数検出された。建物跡の中には2間×6間以上の大型のものも含め、規則的な配列が窺える点があり、注目される。土坑の中からは、完形の須恵器無台杯や串状木製品がまとまって出土しており、祭祀に係わる遺物と考えられる。墨書土器も数点出土しており、「吉水」と読めるものがある。上層の遺構確認面から約1m程下からは弥生時代後期の集落跡が発見された。明確な住居は発見されていないが、多数のピットが検出されていることから、なんらかの建物跡が存在したことが考えられる。他にも溝、土坑なども検出され、壷・甕・高杯・器台など多量の土器が出土した。土器類の他には装身具である管玉の製作途中のものが1点出土している。石材は緑色凝灰岩である。



中沢遺跡位置図　S＝1／50,000

中沢遺跡上層　掘立柱建物跡

中沢遺跡下層　遺物出土状況

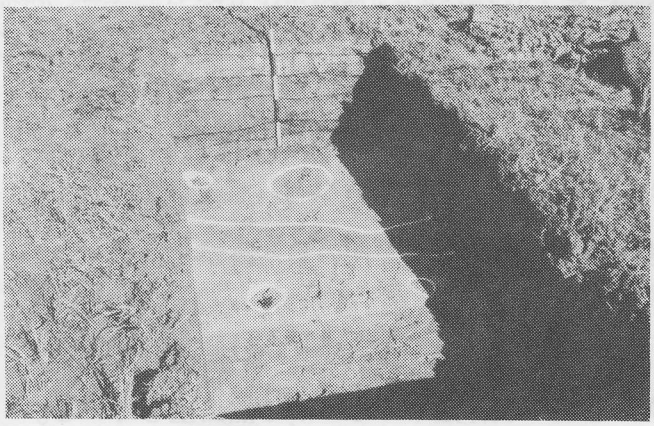
上層面の平安時代の集落跡については、これまで調査された鬼倉遺跡や馬越遺跡との比較検討を行い、関連性等を今後調査していきたい。下層面の弥生時代の集落跡の発見からは、加茂市域の平野部における開発がかなり古くから行われていたことが知られる。弥生時代後期頃は西側の社会から緊張した情勢が伝わり、新潟県内においても高地性集落などの防御的集落が多数見られ、低地に位置した本遺跡との関係が注目される。中沢遺跡は弥生時代及び平安時代についての重要な情報を多数持った遺跡と言える。

2. 各種開発に伴う市内遺跡試掘・確認調査

所　在　地　加茂市大字下条地内　　調査面積約390㎡

調 査 期 間　平成12年10月4日～11月15日　　調 査 原 因　吉津川地区県営ほ場整備事業

調査の概要　加茂市の山通遺跡、新堀遺跡、馬越遺跡の3遺跡と三条市の新田川遺跡、吉津川遺跡、安曲遺跡、中谷地遺跡の4遺跡周辺地において試掘・確認調査が行われた。この度の調査対象区域内においては山通遺跡、新堀遺跡、新田川遺跡周辺地、中谷地遺跡周辺地では全く遺跡は発見されなかった。吉津川遺跡周辺地からは平安時代の墨書土器が1点、安曲遺跡と馬越遺跡からは奈良・平安時代と中世の集落跡の一部が発見された。特に馬越遺跡からは多量の遺物と溝、ピットなどが多数検出され、市内屈指の集落跡であることが知られる。



馬越遺跡　遺構確認状況

馬越遺跡　出土遺物

編集後記

昨秋の長期予報とは異なり、厳しい寒さと多くの雪に埋もれた冬でした。にもかかわらず多くはありませんでしたが、その中を御来館いただきました。

第8号発刊に際し、講演・執筆等に追われておられる古川信三氏（加茂市文化財調査審議委員長）より玉稿を賜りました。ご多忙のなか誠に有り難うございました。

今後とも、市民及び関係各位の一層のご協力の程お願いします。